

## 猪 7 猪除けのお守り = = = 猪・鹿・狸より

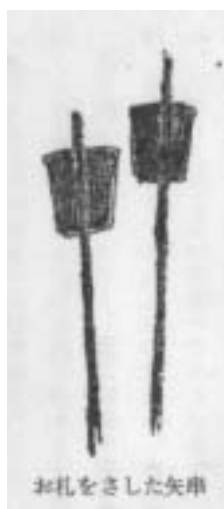
ある雨のそば降る晩だと言うた。猪の番小屋のすぐ傍らで、何やらぼそりと変な音を聞いて不思議に思った男が、そっと垂筵の中から覗くと、畔に沿った井溝の傍らに、何だか真っ黒いものがじっとしている。初めは狩人であるかと思ったが、よくよく透かして見ると、それが大きな猪だったと言う。

いかに番をしていても、ちょっと油断をすれば、猪が出たのである。ある家では人手がないために、夜通しカンテラを田の中に点しておいてそれでも喰われたが、その隣の田では、作主が忙しいままに、どうでもなれと覚悟を決めて、幾日もほっておいたが、一向寄りつきもせなんだと言う。あるいは不運の者に限って荒らされるなどと信じられた。そうかと思うと、ただの一晩、風邪気で番小屋行きを休んだばかりに、ひどく稲を喰われたりした。こうなると、屋敷にいる鼠かなぞのように、そっとそこいらからこっちの内緒話を聞いているようにも思えたのである。あの人も運が悪いのんなどと、猪に出られた作主を女同士が陰で囁いているのを現に耳にしたものであった。

はや昔話になった山住（やまずみ）さんの猪よけの御守りを、一人が思い出して迎えて来ると、初めは嘲ってみても、何だか不安になって、われもわれもと迎えに行き、畔ごとに立てた。山住さんは山犬を祀るという神であった。つい、三、四年前のことで、刈取りを終わった後までも、畔から畔へ、矢串に挿した白い紙札が夥（おびただ）しく立っていた。中には迎えに行った時、はたして猪が出ぬかなどと駄目を押して、お札で心もとなくばお姿をおつれ申すかと、取次ぎの男に嚇されて、いやそれには及びませぬと、早々還ったなど話もあった。しかし奇妙にその年一年だけは、猪が出なんだそうである。そうは言っても、翌年は一人も迎えに行ったものはなかったと言うから、村の人々の心持も、猪以上判らなんだ。

山住さんのお姿を借りて来れば、猪でも鹿でも田へ近づくものは片端から食い殺して、その場へ転がしてあると言う。またその期間中は、田圃近くの草の葉陰や石の上に、見るともなく凄くお姿が顕れるとも言った。現に村の空寺へ住持になって来た山住一派の坊さんは、疑うなら、食い殺してお目につけようかと、恐ろしいことを言うたそうである。

自分も一度その坊さんを訪ねてみたが、あいにく不在で会えな



んだ。留守の婆さんにいろいろ訊いて還ったが、須弥壇の本尊と並んで、櫛を立て注連縄を張り、白い幕が下がって山住さんが祀ってあった。中に方五寸ばかりの真っ黒い箱があって、お姿が納まっていると言うた。たしか箱の表に右の字が一字記してあった。中が拝見したいと図々しく頼んでみたら、雑作はないが後で納めるのがむつかしいから、何なら住持のおる節にしてくれと、もっともらしい言い訳であった。箱から出すと一緒に荒ばれて困るのだそうである。そう言う間にも、婆さんの陰惨な顔つきと右の字を書いた箱の神秘に魅せられるように思ったが、後で聞いた話では、村でも心ある者は、住持の遣り方に困っているとのことだった。一方坊さんには、山住さんがどうしても離れぬのだそうである。その後寺の後ろの山へ、新しく祠を立てて祀ったと聞いたが、手近に山住の一派が来られても猪はまだ盛んに出るので、番小屋泊りも休まれぬそうである。

# 山住神社



狛犬も・・・



お社



本家の神札

## 山住神社

山住神社は静岡県磐田郡水窪町山住230に鎮座せられ、御祭神は日本総鎮守大山祇命にして、和銅2年元明天皇の御代伊予国越知郡大山祇神社より遷祭し山住大権現と号す。

56代清和天皇の御代貞観2年1月27日遠江国正五位下苅原河内守従四位下を授けられ、同16年2月23日遠江国従四位上を授けられ、勅使を2回下向せられた延喜年中式内社に列せらる。永正10年6月7日103代後柏原天皇の御代奥山郷高根城主大膳守武運長久の祈願にて御造営（高根城跡は水窪町久頭合に有り）。越えて105代正親町天皇の御代元龜3年徳川家康公浜松御在城の時（31歳）三方原の戦い利あらず当神社へ逃げる。敵は家康公を追って当神社に迫るや一天俄にかき曇り辺りは薄暗く日暮れの様相と化し、風腥く靈山全域にてウオーウオー地響きのするうなり声起り、敵はこの奇声に胆を潰し退散、これを以て家康公安泰に難を逃れる。翌天正元年正月17日（32歳）お礼御参社あり、天正4年宝剣2振、慶長19年宝剣1振奉納せらる。慶安2年8月17日徳川幕府累世御朱印を賜る。114代桜町天皇の御代享保18年3月16日雷火の為本殿幣殿を始め宝蔵に至るまで焼失したため御普請御免のお許しを請んとし、大宮司山住大膳亮禰宜高木三郎太夫を従え、時の將軍吉宗公に直参の際將軍の御意を以て夏6月江戸において臨時祭を斎行すると一天かき曇り寒気甚だしく降雹あり。御感浅からず直ちにご普請差し許されたりと明治5年山住神社と改め、県社に列せらる大神は専ら邪気退散魚漁豊足家内安全商売繁盛お犬様信仰の御靈験あらたかで往時より遠近の信者登山参拝するもの甚だ多い。海拔1100メートルに鎮座、周囲2丈余の御神木（神社庁指定）老杉は天然記念物として県からも昭和46年8月3日指定されている。

\* 山住神社HPより参照